



みさけ福祉だより

第65号 (令和6年4月1日発行)

発行所
味酒地区社会福祉協議会

地域福祉サービス事業
事務局



勝山中学校
校長 八木 誠一

プライドと無私的心

勝山中学校は今六三五名の生徒数を誇る、県下でも有数の大規模校です。毎年本校では同窓会のご援助により長く同窓会名簿を作成しており、その年の春に卒業する生徒に手渡しています。その名簿にはこれまでの卒業生数一覧のページがあります。最も多いときの卒業生は、昭和38年に八二一名の方々がいらっしやいました。そしてこのときの全校生徒数は、これも勝山中学校史上最多の全47学級の二三〇九人を数えました。今ではとても想像できない大人数の生徒が、この勝山中学校にいらしたわけです。ちょうど60年を経た現在では、全国的な少子化の影響から本校でも生徒数が減少傾向にあります。勝山中学校の伝統はしっかりと息づいています。今の生徒たちは、60年前の先輩方に負けぬプライドをもって、充実した学校生活を過ごしています。

長い伝統に支えられた勝山中学校のプライド、それが最も顕著に表れてい



ることと言えば、私は何と言っても、松山大学グラウンド近くのロシア兵墓地を、毎月一度生徒たちがボランティアで清掃をしていることだと思います。これは、およそ40年前の生徒たちが自発的に墓地の清掃に取り組み始めたことをきっかけに清掃奉仕の輪が広がり、その後も綿々と受け継がれてきたものです。以来、全国的にも希な活動であると評価され、道徳の読み物資料にもなりました。また、日本とロシアの友好の懸け橋として、ロシア大使等の関係者の方々が何度となく現地を来訪されました。校長室には、時のロシア領事の方からの感謝状が飾られ、さらに校舎の廊下には、時の内閣総理大臣と生徒たちが墓地にて撮った写真も掲示されています。

毎月第二土曜日の朝、生徒たちは三々五々墓地に集まります。生徒会役員の指示のもと、雑草一株落ち葉一枚に至るまで徹底して掃除をし、墓石を磨きます。活動後に掃き清められた墓地向を眺めると、思わず背筋が伸びる気がします。また活動後の生徒の表情は、明るく清々しく、どこか誇らし



げにも見えません。私は清掃に参加するたび「こんないい表情ができるのは、勝中生だけだなあ」といつも思います。

去年の10月にはこんなこともありました。ある日の午後、校区内の道路で交通事故があり、バイクが転倒したそうです。その時近くを通りかかった本校の女子生徒2名が、事故に遭われた方を介抱したとのこと。その行いがすばらしかったと、事故対応に当たった地域の方からお褒めのお電話をいただきました。

困っている人を進んで助けようとする行いは、純真でひたむきな無私心のあらわれです。この無私心は、ロシア兵墓地清掃奉仕活動を通して、40年間育まれてきた勝中生のプライドと相通じるものがあると思います。他者のために進んで奉仕しようという精神が、勝山に育つ生徒たちの骨身に沁み込んでいるのです。今後もこのすばらしいプライドと無私の心を未来に伝えていくことが大切だと、肝に銘じているところです。

自転車を利用している皆さまへ



改定した 自転車 安全利用五則 を 守りましょう!

自転車安全利用五則 (令和4年11月1日中央交通安全対策会議交通対策本部決定)

- 1 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメットを着用



交通事故が多発しています ルール違反は危険です



令和4年11月1日中央交通安全対策会議交通対策本部決定

赤い羽根共同募金のお礼

令和5年度の共同募金運動に真心からのご協力を頂きありがとうございます。ありがとうございました。

一人ひとりの真心を味酒地区の福祉活動のため大切に活用させて頂きます。

編集後記

元旦に発しました能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

私たちも「もしもの災害に自分のできる備えを日々取り組んでいきたいと思います。

今回は勝山中学校校長先生にご寄稿を頂きました。書面にご協力頂きました皆さま、ありがとうございます。

味酒にこの人あり



宮西2丁目 菅悦次郎さん(86歳)

生涯現役で味酒地区のため、多くのボランティア活動に元気はつらつ務められている菅さんの現在のバイタリテイの礎は若き日々にあります。昭和30年代中盤から松山市消防局に奉職。入局1年目に松山市で初導入された救急車に乗り、救急隊員として任務されました。

まだまだ市民にも広く知られておらず、消防局としても手探りの運用で、救急車で運ばれた方が入院となると各自で布団を用意しなければならなかった時代。患者さんの家の布団を再度、病院に届けに走ったこともしばしば。

また、若き消防隊員時代は制服の支給のみで、現在のような活動服はなく、ネクタイ姿で消火現場に向かったこともあったそうです。

本部・西署・南署・小野支所・東署など退職までに多くの地域で勤務され、日勤・夜勤をこなした苦勞の日々も「今ではいい思い出です」と笑って語られます。

長年、人のため、松山市のためと一生懸命働かれたその精神と活力は退職後にも生かされます。

地元への恩返しのために、現職中忙しくてできなかった地域活動に積極的に参加。宮西2丁目の町内会副会長を皮切りに、気配りと行動力で活動と活躍の場を広げ、令和5年3月まで6期12年の長きに渡り、公民館館長補佐を務められました。

菅さんといえば、元公民館長の土居貴美さんと一緒に立ち上げた「チャレミイ探検隊」が大きな功績のひとつです。

夏休みに味酒地区の小学3年生から6年生を対象に、防災訓練・夜の動物園・お菓子作りなど多くの体験を通して、仲間作りと地域との繋がりを子供たち自身に肌で感じてもらう試みとして開始。公民館を使っての一泊二日の大冒険に参加した子供たちは、大きく成長し、たくさんの思い出をもって巣立っています。

その成功を受けて、一月には「七草がゆ&城山ウォーク」の活動も始まり、将来の味酒地区を担うであろう子供たちが地域を理解し、地域と繋がる育成活動は益々盛んになっています。「公民館の活動に関して右も左も解らないままお引き受けしましたが、多くの皆さんに助けて頂き、頑張ることができました。」と笑顔の菅さん。今なお、交通安全協会やまちづくり協議会、四角さん・八角さんで有名な古町大神興会など、味酒地区を盛り上げる多くの活動を応援されています。

昨年、運転免許を返納され、自転車がお出掛けの相棒になりました。

日課の朝散歩は約1時間。日常生活と合わせて一日1万歩を目標に、奥様と、手入れしている草花に囲まれて、これからお元気に、味酒を見守り続けます。



民生委員・児童委員のイメージキャラクター“ミンジー”が平成23年東京で誕生しました。この度松山市でも“ご当地ミンジー”が誕生。「地域における支え合いを支援する」「社会全体で子育てを応援する」活動に取り組む姿を示している。よろしく！



「近所さんのふれあいの場」ガレッジカフェ



行い、入口をビニールシートの垂れ幕で寒さをしのぐ工夫には驚かされました。

テーブルやイスは家に有る物で、飲食物は持ち寄り、暖かいストーブのあるガレッジで皆さんが楽しそうにお喋りをされています。

名簿も会費も無く、お年寄りの交流の場で、ふと、壁の「りんごのきのめニュー」に目がとまり何うと、就労維持支援事業所もコロナ禍の影響を受けているので、手作りお菓子等の注文購入にも参加者が一役買っているそうです。

まさに、支え合い、気力・体力・活力の維持向上の一時間半でした。片付けは全員で行い、皆さん楽しそうに笑顔で帰って行かれました。

「単なるおせっかいから始まったのですよ。」と笑いながら話された前田さんは、36年前から篤志面接委員(矯正施設での活動)もされ、多方面でのボランティア活動に尽力を重ねて来られました。

今後、ご主人と共に、ご健康で益々活躍される事を願っています。



楽しい “みまもり隊活動” 今井 一男



危険な個所などに立ち「お帰り」などの声かけをする「子どもみまもり隊」をはじめ、今年で11年目になる卒寿を迎えた今井さん。町内会長になると同時に依頼があり、現在に至っているとの事。子供が好きで活動していて楽しい、又子供達が将来どんな大人になるか未来を想像するのも楽しみだそうです。10年間で4回だけ休んだそうです。

下校する子供達が近づくと、安全を確認し、横断歩道に立ち無事渡り終わると、行き交う車におじぎをささないから学校まで見に行ってくるという言葉、さつそうと自転車に乗る後

受賞おめでとうございます
愛媛県民生児童委員協議会会長表彰
永年勤続



大福 精子

昨年12月に地域のお宝発表会で紹介された衣山五丁目の前田直子さん(79歳)は、原則として毎月第一、第三日曜日に自宅ガレッジを解放して、ご近所の男女18名、最高齢98歳の方々のお喋りの場として提供。コロナ禍の最中、隣の方の「誰とも話さないのが寂しくてたまらない。」の一言がきっかけで、令和3年7月にスタート。

訪問した日は、早くからご主人と地域の民生委員さんの協力で準備を